

医療ルネサンス

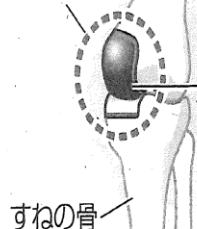
No.8608

膝関節の治療

4/6

◆人工膝関節の仕組み

部分置換

一部だけを
人工関節にする

ももの骨

すねの骨

全置換

全体を人工関節にする

グラウンドゴルフの練習を
する小泉さん（堺市で）
合金属やプラスチックで
できた部品

60歳を過ぎ、左膝が痛み始める。近くの診療所で変形性膝関節症と診断された。膝の軟骨はすり減り、半月板も損傷していた。脚が外側に湾曲するO脚も表れた。

「色々手を尽くしても駄目だった。人工膝関節の手術を受けて、ようやく改善した」。堺市の小泉益枝さん（76）は振り返る。60歳を過ぎ、左膝が痛み始める。近くの診療所で変形性膝関節症と診断された。膝の軟骨はすり減り、半月板も損傷していた。脚が外側に湾曲するO脚も表れた。

「ガラスの破片の上に膝を押しつけているよう」な痛みを感じるようになつた。横断歩道でも、痛みが急に表れて渡りきれなくなるのが怖く、信号機が青になるタイミングを待ち、渡る時間確保した。

痛みを取るヒアルロン酸の注射をしばらく続けたが、効果は続かなかつた。

血小板を使う自由診療も試したが、良くはならない。知人から痛みが取れたと聞いていた、膝関節を人工関節に置き換える手術を受けたいと、診療所の医師に云えた。実績がある阪和第二

泉州病院（堺市）の阪和人工関節センターを紹介され

た。

手術では、膝にあるももの骨とすねの骨の表面や、傷ついた軟骨を削る。そこに合金やプラスチックでできた人工関節をかぶせる。

膝関節の状態によって、全体を置き換える方法と、内側か外側のどちらか半分を置き換える方法の2通りがある。

小泉さんは、左膝の外側の軟骨が残つており、同センター総長の格谷義徳さんから、内側半分を置き換える方法を勧められた。術後に膝を動かせる範囲は比較的広めで、膝の動きに違和感が少ないと。71歳で手術を受けた。回復は早く術後2週間で退院、3か月後には仙台市に旅行に出かけた。ただ、O脚は解消せず、湾曲した形が気になつた。

置換手術最最後の手段

その後、左膝をかばうよう

に歩いた影響で、右膝が

痛むようになつた。

「右脚はO脚も治したい」と希望

し、膝全体を人工関節に置き換える手術を受けた。

手術の結果、右脚はまっすぐ足している。今は両脚ともに痛みが改善され、週3日、夫とグラウンドゴルフを楽しんでいる。

人工膝関節は耐用年数が15～25年とされ、再手術を回避するために70歳以上の患者に使うことが多い。術

後に膝への負荷が軽い水泳やサイクリングをするのは可能な一方、正座や、強い負荷がかかるランニングをするのは難しくなる。

手術後に骨がもろくなると、人工関節と骨との間に隙間ができる。人工関節がぐらついてしまう。そのため薬を使うなどして、骨の強度を保つ必要がある。格谷さんは「他の治療法を試して効果がなかつたときに最後の手段となる」と話

している。